

白点状網膜炎之二例

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38478

(原著及實驗)

十六日 視力左 $\frac{6}{60}$ 右 $\frac{6}{18}$ 欠損部漸々小トナリ邊縁一層明瞭トナリシモ網膜外下方ノ滲漏劇甚トナリ網膜下ニ滲出物ヲ見ル

二十日 左眼乳頭ヨリ外下方ニ於テ網膜剝離ヲ起セリ

二十八日 視力前同斷、剝離益々増大ノ模様アリ依テ鞏膜切開ヲ施セシニ僅ニ褐色ヲ帶ベル漿液十滴余漏出セリ今日ヨリ發汗注射ヲ止ム

三月一日 剝離シタル網膜全ク癒着シ殆ンド常態ニ復セシモ網膜面一般尙多少滲漏ス 視力左 $\frac{6}{60}$

七日 網膜一般大ニ清期トナル視力左 $\frac{6}{40}$ 右 $\frac{2.5D + 小孔}{1.5}$ $\frac{6}{6}$

十三日 靜脈尙僅ニ怒張スト雖網膜滲漏益々減退シ破裂部大ニ狹小シ乳頭ノ二分ノ一大ト成ル視力左 $\frac{6}{40}$ 右 $\frac{6}{18}$ 小孔若クハ凹面鏡 3.0 D. ニテ $\frac{6}{6}$

二十五日 穿孔別ニ變動ナキモ網膜面一般ニ少シク滲漏セシ觀アリ視力前同斷

上記ノ如クナルガ故ニ多少素因ノ存セシナランモ兎ニ角柔道ニ誘發シタル網膜穿孔ニシテ四十一日目ニ網膜剝離ヲ繼發シ鞏膜切開ニ由テ再ヒ癒着シタル者ナルヤ明カナリ

(明治四十一年四月一日受領)

○白点狀網膜炎之二例

(附、第二圖版三圖)

特別會員
醫學博士
高安右人

(澤 金)

本篇ハ明治四十年六月一日金澤醫學專門學校十全會講話大會ニ於テ演述シ、再ビ明治四十一年四月一日開催ノ福岡醫科大學ニ於ケル日本眼科學會總會ニ述ベタルモノナリ

余ハ曾テ本病ニ就キ甚ダ稀ナル疾病トシテ其二例ヲ紹介シタリキ(グレ!フエ氏眼科實函第六拾叁卷第二號)。日本眼科學會雜誌第拾卷第五號)然ルニ其後又貳例ヲ得タリ斯ノ如ク僅々數年間ニ此四例ヲ實驗スルヲ得タルハ眞ニ偶

然ナルカ將タ實際ニ於テハ甚ダ稀有ノ者ニアラザルモ實見者ニシテ之ヲ悉ク報告セザルガ故ニ只罕ナルノ觀アルニ過キザルニハアラザルカ稍疑念ヲ生ゼシヲ以テ特ニ殊異ナル症狀ヲ呈スルニ非ト雖爰ニ復之ヲ報告スルコト、ナセリ記録ノ簡單ナル讀者夫レ之ヲ諒セヨ

第一例 十三歳ノ女兒 山森某 明治三十九年八月廿七日來院シテ曰ク幼少ノ時ヨリ夜間ノ如キ光線弱キト

キハ視力著シク減弱シ晝間ト雖厖屋外ヨリ室内ニ入ルトキハ暫時不明ニシテ火鉢等ニ蹉ツクコトアリ依テ診ヲ乞フト蓋シ該兒ノ兩親ハ從兄弟ナリト云フ

現症 外部更ニ異狀ナシ、倒像検査ヲ行フニ兩眼共乳頭面黃斑部及ビ其附近ノ外、眼底一面ニ粟粒大黃帶灰白色ノ斑点簇生ス赤道部ヲ超ユレハ斑点稍大トナリ形又往々不正トナリ互ニ漸々近接シ黃色ノ「モザイク」狀ヲナス色素ハ更ニ發見セズ血管等ニモ亦別ニ異狀ヲ認メズ

視力ハ左右共ニ正視六分ノ六

視野ハ普通ノ光力ニ於テハ僅カニ狹小スルモ光線ノ弱キ場所ニ於テ之ヲ檢スレバ著ルシク狹小ス (視野圖第一表甲、乙參照)

第二例 十五歳ノ童兒 竹山某 四十年四月二十二日來院訴ヘテ曰ク一昨年ヨリ光線弱キ時ハ視力著シク減

弱ヲ來シ不自由ナルニ依リ來院セリト患者ノ兩親ハ從兄弟ナリ

現症 外部更ニ變狀ナシ檢眼スルニ兩眼共乳頭及ビ黃斑部ノ近部ヨリ赤道部ニ亘リ圓形粟粒大黃帶白色ノ斑点簇生シ血管等ニハ異狀ヲ見ズ色素モ亦發見セズ但シ右眼ノ斑点ハ左眼ニ比シ少シク小ニシテ且ツ小長ナリ周圍ニ至レバ漸々増大シ互ニ壓排シ形不正トナリ「モザイク」狀ヲ呈ス

視力ハ左右共ニ正視六分ノ六

視野大ニ狹小ス(視野圖第二表參照)

上記網膜ノ白点ハ何レモ血管ノ下方ニ存シ且ツ配置整然トシテ殆ンド粗密ナク唯眼底ノ中心ト周圍トニ差アル
ハミ而シテ各斑点多クハ互ニ孤立スルモ又ナカニハ二、三聯鎖狀ニ並列スルモノアリ

右ノ症狀ニ依テ案ズルニ其白点狀網膜炎タルヤ毫モ疑ヲ容レザルナリ而シテ兩者共ニ其兩親ノ從兄弟間ナルヲ觀レ
バ原因上兩親ノ血族結婚ハ輿論ノ如ク密接ノ關係アルヤ堅ク首肯シ得ベシ

附圖 第貳圖版

視野表

第一表	甲、乙	第一例、	山 森 某
第二表	第二例、	竹 山 某

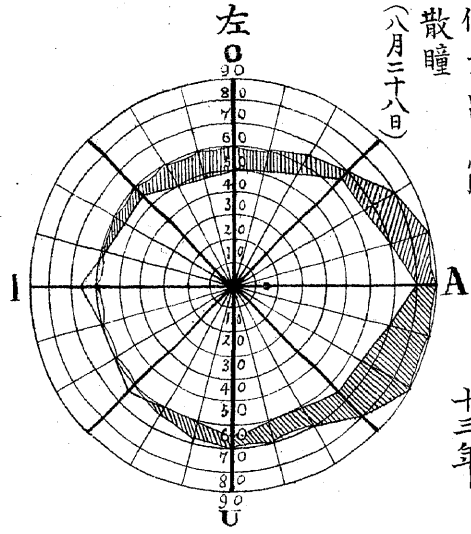
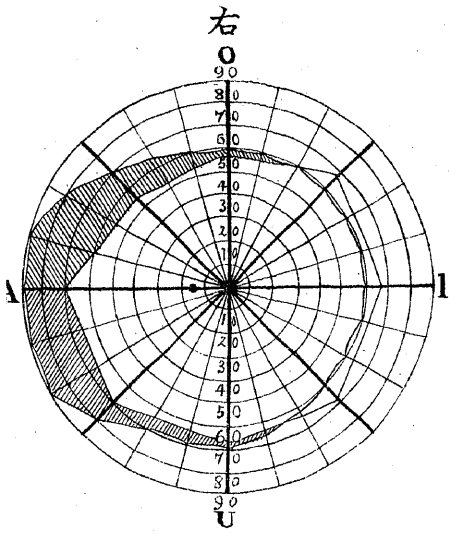
(明治四十一年四月一日受領)

版圖貳第

第一表甲

快晴診察室ニテ計ル
但シアトロピン点眼ニヨリ
散瞳
(八月二十八日)

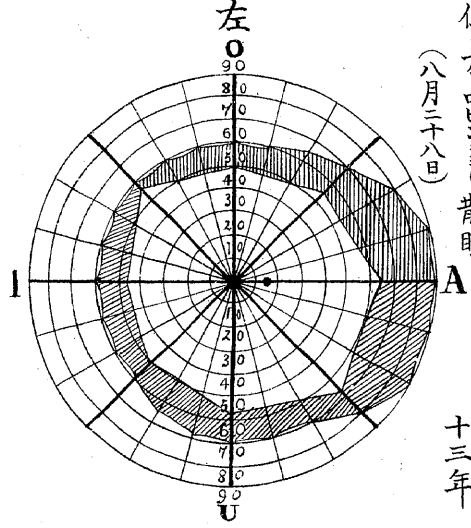
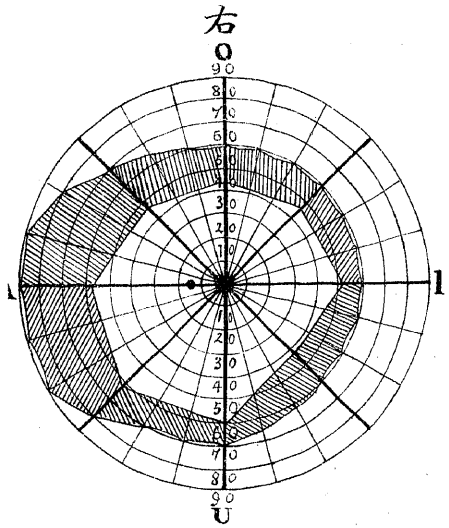
山本 某
十三年



第一表乙

暗室燈火(薄光)ニテ計ル
但シアトロピンニヨリ散瞳
(八月二十八日)

山本 某
十三年



第二表

快晴診察室ニテ計ル
(四月二十二日)

竹山 某
十五年

